

事例から学ぶ

一包化調剤に関する事例

■事例の内容

患者に一包化調剤した薬剤を交付した。その後、手撒きで分包したニコランジル錠5mg「日医工」が分包機に1錠残っていることに気づいたため、患者に薬剤を持参してもらったところ、ニコランジル錠5mg「日医工」が入っていないものが1包見つかった。調剤し直して患者に渡した。

■背景・要因

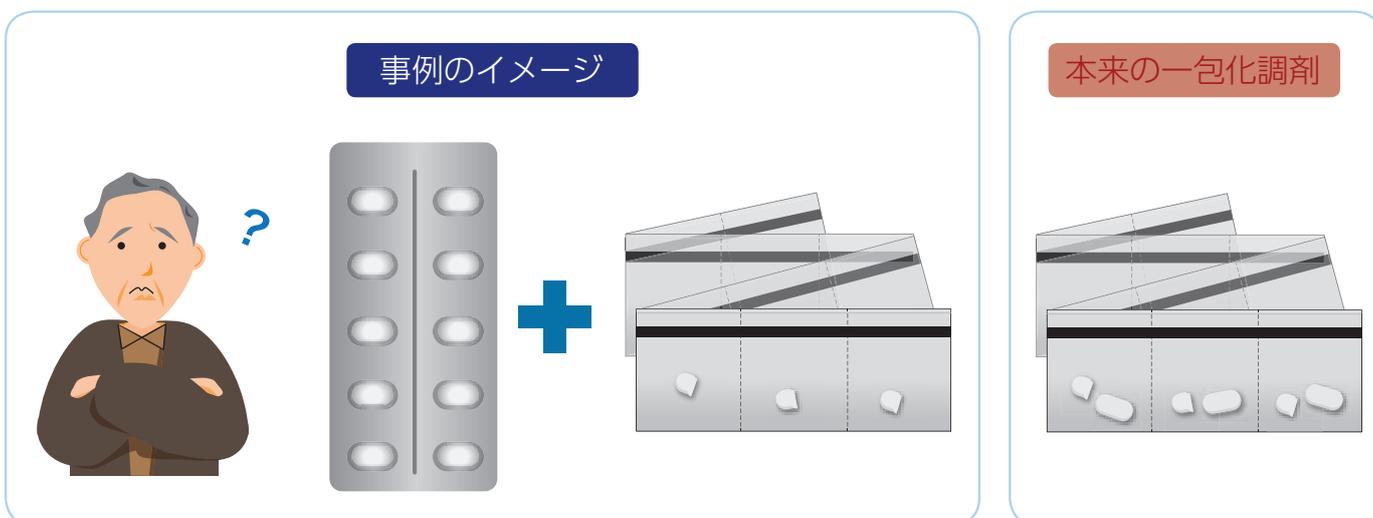
分包機が古いせいか、手撒き部分に錠剤が残ることが度々起こっていた。錠剤が小さく軽いため、落下しなかったと思われる。1人の薬剤師が調剤と鑑査を行っており、忙しかったこともあって、薬剤が入っていないことを見逃した。

■薬局が考えた改善策

調剤後に、薬剤が分包機の手撒き部分に残っていないか確認する。

→この他にも事例が報告されています。

- ◆ オイグルコン錠2.5mgが1回1.5錠で処方された。1錠分はPTPシートで、0.5錠分は0.5錠の予製剤で調剤し患者に交付した。1週間後、患者から、薬剤がいつもと違うので飲み方がわからなくなったと訴えがあった。当薬局では通常1回分を1包化することになっていたため、本来は1.5錠をまとめて分包すべきであった。



- ◆ リピディル錠53.3mgが1日2錠分1 30日分の処方であったが、1回1錠と思い込み、用意した錠剤60錠を自動分包機の手巻き部分に1錠ずつセットした。そのため、後半にセットされた30錠が自動分包機内に残り、次に一包化調剤した患者の薬剤に混入した。

- ◆ 処方がファモチジンOD錠20mg「ケミファ」からネキシウムカプセルへ変更になった。すでに一包化調剤していたファモチジンOD錠20mg「ケミファ」を抜き取り、ネキシウムカプセルを加えて分包し直し患者に交付した。抜き取ったファモチジンOD錠20mg「ケミファ」を片付ける際に、マグミット錠が1錠混入していることに気づいた。患者に連絡を取り確認したところ、ファモチジンOD錠20mg「ケミファ」のかわりにマグミット錠を抜き取った分包品が1包あることがわかった。

→一包化に適さない薬剤を一包化調剤した事例も報告されています。

- ◆ デパケン錠200mgは吸湿性があるため一包化調剤しないことになっていたが、他の薬剤とともに一包化調剤を行い、交付した。後日、患者から指摘を受け、調剤し直した。

<参考>デパケン錠200mg*の添付文書（一部抜粋）

【取扱い上の注意】

本剤は吸湿性が強いので、服用直前までPTPシートから取り出さないで下さい。また、保存に際してPTPシートを破損しないようご留意下さい（本剤をPTPシートから取り出し一包化調剤することは避けて下さい）。

*デパケン錠100mg/200mg添付文書。協和発酵キリン株式会社。2014年11月改訂（第21版）。

ポイント

- 一包化調剤に間違いがあると、患者はその間違いに気づきにくく、また、他の患者にも影響を与える場合があるため、調剤後は一包ずつ中身を見て鑑査することが肝要である。
- 薬剤師は分包機の特徴や注意点を理解したうえで調剤し、分包機の点検や修理等に関しても一定のルールを決めて手順書に記載しておくが良い。新しい機種に入れ替えた際は、特に注意が必要である。
- 患者が継続して薬剤を服用している場合は、調剤方法が変わることで患者が混乱し誤った服用につながる恐れがあるため、一包化調剤に関する手順書を作成し、薬局内で情報共有して確実に遵守することが重要である。
- 先発医薬品が吸湿性があるため一包化調剤できない薬剤であっても、同成分の後発医薬品の中には一包化調剤できる薬剤が存在する場合がある。例えば、デパケン錠200mgの後発医薬品であるバレリン錠200mgは一包化調剤が可能な薬剤である。患者のコンプライアンスの改善を目的とした後発医薬品の選択も重要である。

